



世界に希望を生み出そう

加古川平成ロータリークラブ
会長 林 知宏
幹事 畑山 哲人
広報小委員長 山本 裕一
2680地区ガバナー 安行 英文

例会日/毎水曜日 12:30~13:30・例会場/加古川商工会議所会館 4F
事務局/加古川市加古川町溝之口 800 加古川商工会議所会館 5F
Tel. 079-422-8000 FAX. 079-422-8100
ホームページ <http://www.k-heisei-rc.com/> Eメール heiseirc@basil.ocn.ne.jp

2023~2024年度 RI 会長 ゴードン R. マッキナリー

No. 1566 Jun 12、2024

例会プログラム

第 37 回 (6 月 12 日)

「クラブ協議会」
(一年の反省)

畑山 哲人幹事

例会当番 高田

次週例会プログラム

(6 月 19 日)

15日(土)に変更
「35周年姉妹クラブ合同例会」

於; ホテル北野プラザ六甲荘

次週例会当番 鳥井

前週例会報告

- ◇ ゲスト
- ◇ ビジター
- ◇ 出席率 前週 会員数 17名 出席数 9名 出席免除 2名 欠席数 6名
前々週 会員数 17名 出席数 7名 出席免除 1名 欠席数 8名
- ◇ 欠席者 6名 井上 金川 柴田 鳥井 藤田 松野
- ◇ メークアップ 2024年3月24日 香住ロータリークラブ 宮宅
2024年6月2日 新旧ガバナー補佐会議 宮宅



★ 会長の時間

★ 誕生日祝

★ 鈴木会長エレクト

会長の時間

会長 林 知宏

先日6/1(土)、地区ラーニング委員会主催のRLI方式ファシリテーション手法のセミナーに参加してまいりました。参加者は地区委員会を開催する立場の委員長・副委員長及び小委員長の為のセミナーです。各委員会での議論の進め方や深め方を学ぶセミナーとなります。これまではセミナーと称し前列の講師が一方的に話すだけのトレーニングになっていましたが昨年からはラーニングという考えから今回のセミナーのようにRLI方式(ロータリー指導者研究会と直訳)のファシリテーション手法による会議の進め方を学び運営していくことが推奨されています。

ファシリテーションは会議やディスカッションの問題をより分かり易くするためのプロセスです。進行者をファシリテーターといいます。

ファシリテーターは、ディスカッションを行うチームが効果的に機能し、高い質のアイデア交換ができるように、ディスカッションの内容を決定し、導き、監視する中立な立場の人です。ファシリテーションとは“お手伝いする”役割です。

求められる技能としては

- ・聴くこと。ファシリテーターは、すべての参加者の発言に耳を傾け、積極的に聴く力を持っていなければなりません。
- ・質問すること。ファシリテーターは、巧みに質問ができなければなりません。リーダーは巧みな質問をしながら導いていきます。すなわち、参加者の関心を高め、発言を促すために、言葉遣いを換え、また言い回しを変えながら質問をすることが必要です。
- ・共有すること。ファシリテーターは、参加者が感想や意見を積極的に述べたいと思えるような雰囲気を作り出す必要があります。
- ・問題解決に努力すること。問題が提起されたとき、ファシリテーターは否定的な面に焦点を当てるのではなく、当事者やそのグループ全体が解決策を見出せるような方向に話し合いを進める必要があります。
- ・意見の対立解消に努力すること。参加者の中で意見が分かれるのを抑え込むべきではありません。むしろ、これは予想されるべきことであり、建設的に対処すべきです。参加者は多様なバックグラウンドがあり、また様々な意見を持っていることを認識しておく必要があります。
- ・参加型の討論形式を採用すること。ファシリテーターは、参加者全員が討論に参加できるように努力すべきです。
- ・他人に寛容であること。ファシリテーターは、常にオープン・マインドで、中立の立場を保つべきです。また参加者の意見や提案を批判すべきではありません。

本日の幹事報告

※ 例会欠席の時は必ず事前に事務局へ連絡！

- ① 各RC例会変更のお知らせ
高砂青松RC 7月17日(水)→休会【定款第7条第1節(d)による】
加古川RC 7月30日(火)→8月1日(木)午後6時～納涼例会のため
於；みとろの丘 カムズレストラン
8月13日(火)→例会取りやめ〔定款第7条第1節(d)(1)〕
- ② 回覧します
・中津平成ロータリークラブ週報
・(公財)ひょうご子どもと家庭福祉財団より令和5年度のあゆみ
- ③ Boxに本日の資料を入れております。
- ④ 次週19日(水)の例会は、15日(土)、ホテル北野プラザ六甲荘において、「35周年姉妹クラブ合同例」に変更となっております。今年度は、加古川平成RCがホストとなっております。準備等ありますので、ホテル北野プラザ六甲荘に午後3時集合でよろしくお願いいたします。

6月度理事・役員会報告

I 会長挨拶

1年間のお礼

II 協議事項

- 1) 藤田会員、畑山会員退会の件 ⇒承認
- 2) 姉妹クラブ予算の件
⇒食事について10,000と8,000のコースどちらにするか協議の上、0,000のコースで手配することで承認

II 報告事項

- ① 6度ロータリーレート 1\$ = 157円 (現行157円)
② 5月度累計欠席連絡状況 電話: 1 メール: 16 fax: 0 出欠表: 7 なし: 0

次年度理事・役員会報告

I 協議事項

- 1) 7月プログラムの件 榊 誠例会担当小委員長
7月3日(水): 初例会「会長挨拶」 鈴木 勝博会長
7月10日(水): 総会・クラブ協議会 山本 裕一幹事
7月17日(水): クラブ管理運営委員会 原田 悟委員長
7月24日(水): 納涼例会 親睦活動小委員会
7月31日(水): 例会取消〔定款第7条第1節(d)〕
⇒承認
- 2) 予算(各委員会年間歳出金も含む)承認の件 (別紙資料)
⇒承認※会員増強お願いします!
- 3) 前期会費の件
通常会費+周年積立金+地区大会費+ロースター代金+P・H・F(160\$)+ニコニコ(前年度後期分)+
米山特別会費+前年度能登半島地震災害支援金(1,000円)+前年度台湾地震支援金(1,000円)
※7月第1週目に配布(欠席者は郵送) ⇒承認
- 4) 入会金の件 ⇒例年通り、20名に達するまでは10,000とすることで承認
- 5) 週報に関する件(モノクロ印刷、メール配信) ⇒承認
- 6) 定款・細則変更の件 ⇒副会長(役員)をおくことで承認
- 7) その他
①各委員会年間恒例再出金の件
⇒例年通り行うが、米山奨学一人百円募金運動は、削除することで承認
②BAN-BANガイド暑中見舞い名刺広告の件 ⇒見送ることで承認

II 報告事項

- ③ 3クラブ合同例会(ホスト;加古川中央RC) 2024年10月10日(木)開催予定
④ 東播第2グループI.M.(ホスト;高砂RC) 2025年2月8日(土)開催予定

SONG TODAY

我等の生業

作詞;高野辰之 作曲;岡野貞一

※前のボードでお願いします

クラブ会報・雑誌
記録小委員会



ロータリーがインドの農家支援のために200万米ドルの大規模プログラム補助金の授与を発表

ロータリー国際大会で健康な地域社会づくりとポリオ根絶にスポットが当てられる

国際ロータリーの第4回大規模プログラム補助金200万米ドルが気候変動の影響を受けたインドの農家の支援のために授与されることが、2024年ロータリー国際大会(シンガポール)でバリー・ラシン財団管理委員長により発表されました。

「Partners for Water Access and Better Harvests in India」(インドにおける水へのアクセスとより良い収穫のためのパートナー)と呼ばれるこのプログラムは、地下水量を改善し、耕作面積を

広げ、約6万人の農家の収入を推定25~30%改善することを目指しています。

「インドの農家は世界の穀物やコメ、そのほかの主食を生産していますが、これらの農家が依存している地下水がなくなりつつあります。気候変動により雨量が不安定となり、それによって干ばつが起きています」とラシン管理委員長。「私たちは、インドの農家と協力して、インドの次世代やそれ以降の世代のための持続可能な農業に必要な種をまくための5年間のプログラムを立案しています」

「Partners for Water Access and Better Harvests in India」では、砂防ダムや池などの雨水利用システムを作ることで、四つの州で地下水を毎年10~15%増やすことを目指しています。また、約4,100ヘクタールの土地の土壌侵食を削減するため、点滴灌漑を導入し、在来種や果樹を植えます。こうした取り組みにより、気候変動の影響が抑えられ、持続可能な農業慣行が助長されます。

大規模プログラム補助金は、少なくとも一つのロータリー重点分野に一致し、より大きなインパクトをもたらすために拡大可能かつ持続可能で成果が実証済みのプログラムに授与されます。プログラムはロータリー会員が提唱し、地域社会やパートナー団体と協力して実施されます。

今年の最終選考に残ったほかのプログラムには、ウガンダの少なくとも200の公共医療施設で妊産婦と新生児の死亡をそれぞれ35%削減する「One Million Healthy Mothers and Newborns」(ウガンダにおける100万人の健康な母親と新生児)がありました。

健康な地域社会とポリオ根絶

国際ロータリー、ゲイツ財団、ワールドビジョンのパートナーシップにより立ち上げられた「ロータリー健康な地域社会チャレンジ (Rotary Healthy Communities Challenge)」も、今大会で正式に発表されました。この3,000万米ドルのプログラムは、アフリカの4カ国(コンゴ民主共和国、モザンビーク、ナイジェリア、ザンビア)で多くの子どもの命を奪っている疾病に取り組むものです。ゲイツ財団のアドボカシー・コミュニケーションプログラム副責任者であるオビナ・オニェクウェナさんが、このプログラムとビル・ゲイツからのビデオを紹介しました。「このプログラムは、対象国でロータリー会員にリソースを提供し、マラリア、肺炎、下痢による死亡を減らすために大規模な介入を行うことを可能にします。これらの疾病は5歳未満の子どもにとって大きな脅威となっています」とオニェクウェナさん。「私はナイジェリアで生まれ育ちましたから、このプログラムが祖国やそれ以外で人びとの命を救うものであることを知っています」

今大会では、ポリオ根絶に向けたロータリーの活動の最新状況も紹介されました。

この日の本会議では、世界保健機関のポリオ根絶責任者であるエイダン・オリリーさんとYouth CatalystグループのCEOであるタヤバ・グルさん(パキスタン、イスラマバード[メトロポリタン]ロータリークラブ会員)が対談に参加。ロータリーが創立パートナーとなっている「世界ポリオ根絶推進活動」(GPEI)では、毎年、4億人の子どもにポリオの予防接種を行っています。

ポリオ根絶に関する二つの分科会で今後の活動にも焦点が当てられたほか、困難な時代におけるトラウマとメンタルヘルス(マッキナリーRI会長のイニシアチブの一つ)やAIの活用とクラブの未来をテーマとした分科会も開かれました。後者の分科会では、アネグレット・シュニックさんとピーター・ウィルファートさんがAI(人工知能)に関するプレゼンテーションを行い、ロータリー会員がクラブでAIを活用する方法を紹介しました。「AIは急激に成長しており、このトピックについて考えることが重要」とシュニックさんは言います。

シュニックさんとウィルファートさん(ドイツ、バイロイト・エレミタージェ・ロータリークラブ会員)は、AIへの恐怖感を和らげるとともに実用の可能性を紹介し、クラブがAIツールを活用してニュースレターやソーシャルメディアなどの公共イメージ向上活動を促進できることを例に挙げました。また、AIで奉仕プロジェクトのアイデアを生み出し、例会での発言を記録し、会員アンケート調査の結果を分析することも示しました。情報テクノロジーの専門家で、ロータリー会員向けの特別なAIツールを開発したウィルファートさん(自称「フレンドリーなハッカー」)は、「AIは、私たちにとって大切なすべてのことをもっと良くする方法」と述べました。